

くすのき



Kusunoki
市立四日市病院ニュース

発行 令和3年3月25日

市立四日市病院くすのき編集委員会

<http://www.city.yokkaichi.mie.jp/hosupital/>

Vol.24

手術看護認定看護師 小森 雄介

手術看護認定看護師は、手術治療を選択した患者さんが手術を経て退院するまでの一連の経過の中で、手術を中心とした患者さんとその家族に専門性を意識した熟練した看護技術を提供します。また、手術室看護師に看護技術を教育する役割もあります。

*手術室の紹介

当院の手術室は12室あり、24時間体制で緊急手術にも対応しています。昨年度、外科・整形外科・脳外科・胸部外科など約13診療科の手術件数は7138件ありました。

*手術看護の実際

▶手術準備

患者さんの体型や術式に応じて器械や器材を準備します。器械の動作確認やネジの緩みや破損の有無を確認し、器械とガーゼの数を正確に数えます。手術前後の患者さんの心身の状況を把握するため病室へ伺います。

▶手術器械・材料の管理

手術野から目を離さず急激な出血や術式変更に対応します。手術チーム全体とコミュニケーションをとりながら手術進行の先を予測して器械・器材を迅速かつ正確に提供します。常に器械台を整理し、迅速に器械が出せるようにしています。摘出された臓器や組織を厳重に取り扱います。手術野の無菌状態の維持やガーゼや針、器械の体内遺残を防止するために手術創を縫合する前後に必ず数量と形状の確認を行っています。

▶麻酔診療の介助

安全に麻酔管理ができるよう麻酔法、麻酔薬による身体への影響を十分に理解し、麻酔科医師の介助を行います。

▶感染管理

空調の清浄度管理、清潔・不潔区域の選別、器械・器材の洗浄・消毒・滅菌器材の管理を行います。手術を受ける患者さんへの感染管理のみならず、看護師自身が血液や体液からの暴露を予防するため、メスや針に十分注意し、個人防護具を用いて職業感染を防止しています。

▶体位固定

手術操作に必要な手術野を確保するため、術式に応

じた様々な体位をとる必要があります。手術が安全にできる体位を整え、クッションなどを利用して患者さんに無理のない安楽な体位をとる工夫をしています。

▶体温管理

手術を受けると麻酔による体温調節中枢の抑制、室温や内視鏡で使用するガスや灌流液の影響で、容易に体温が低下します。体温の低下を防ぐため、温水が還流するマットを使用したり、体温を継続的に測定することで手術中を通して体温管理を行います。

▶安全対策

手術中の患者さんは麻酔や手術による侵襲が伴うため身体的・精神的に危機的状況に陥ります。医療事故は生命に直結するため、患者さんの安全が最大限保障されるよう様々な対策を実施し、医療安全に取り組んでいます。

*最後に

入院日数の短縮や超高齢化など、医療を取り巻く環境は著しい変化を遂げ、医療の発展とともに近年の手術医療は急速に発展し高度化しています。特にロボット支援手術(図1)、ハイブリッド手術、移植手術などの最先端手術はめざましい進歩を遂げ、手術適応の拡大や様々な合併症を有する患者さんの手術も可能になっています。手術医療の多様化・細分化に伴った専門性の高い看護が要求される手術室看護師は、手術という生命の危機的状況にある患者さんに対して、より専門性の高い技術と知識を用いて看護を実践しなければなりません。患者さんに最も近い存在として、安心して手術が受けられるよう不安や恐怖を和らげる関わりとともに、手術侵襲が最小となるよう心身の負担を軽減する必要があります。手術医療が安全に実施できる環境作りと自身の看護能力の向上、他のスタッフへ模範となるよう日々取り組んでいきます。

図1.手術支援ロボット (da Vinci Xi)



胸部ステントグラフト内挿術－TEVAR

心臓血管外科部長 爲西 顕則

胸部大動脈疾患に対する治療法であるTEVARについて紹介させていただきます。TEVARはThoracic Endovascular Aortic Repairの略で胸部血管内大動脈治療という意味になります。従来の開胸、人工心肺手術を必要とせず、ステントグラフトという金属のステントを貼り付けた人工血管を、カテーテルにて血管内に挿入し、胸部大動脈疾患を治療する方法です。当科では、腹部大動脈瘤に対する腹部ステントグラフト内挿術 (EVAR; Endovascular Aortic Repair) を20013年に開始して、翌2014年にTEVARを開始し、多くの患者さんに治療を受けていただきました。

TEVARの対象となる胸部大動脈疾患は、大きく二つに分かれて胸部大動脈瘤と大動脈解離です。大動脈瘤は動脈硬化などで血管が脆くなってコブ状に膨れてしまい、突然破裂し突然死の原因となります。大動脈解離は、高血圧などが原因で大動脈の内側に亀裂が入り、大動脈壁が血管に沿って裂けてしまう病気です。急性発症で破裂に至る場合や、様々な臓器血流不全、また慢性期になると徐々に血管が膨らんできて解離性大動脈瘤となり、破裂の原因になる可能性があります。どちらも問題となっている大動脈の部位 (大動脈瘤は膨れている場所、大動脈解離は亀裂の場所) を跨ぐようにステントグラフトを大動脈内に挿入固定することによって治療ができます。ステントグラフトは1cm弱に畳まれた状態で、足の

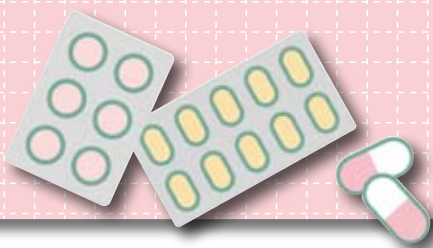
付け根に数cmの切開を加えて大腿動脈という血管から挿入していきます。血管撮影をしながら、固定する場所を確認して大動脈内に留置します。また、大動脈から脳血管や腹部内臓血管が出ている近くの病変も、バイパス術などを組み合わせて治療することができます。体力的な負担は開胸術よりも小さいので、以前は手術リスクが高くて開胸手術困難であった、持病を持っている方や高齢の患者さんの胸部大動脈疾患に対しても、十分可能な治療となってきています。術後経過は順調であれば術後1週間程度の入院となっています。

しかし、TEVARは全ての胸部大動脈疾患に対して可能な治療法ではなく、解剖学的な制約があります。事前に詳細な大動脈の造影CT検査を受けていただき、安全にTEVARが可能かどうか判断させていただく必要があります。

現在、胸部大動脈に対する手術治療は、開胸手術も含め飛躍的に改善していています。患者さんにとっては不安が募る胸部大動脈手術ですが、話だけでも受けに来てください。もちろんセカンドオピニオンなどの準備もできています。



抗菌薬のお話



病気（感染症）にかかったときや怪我をしたときに処方されることがある抗菌薬。名前は聞いたことがあっても、具体的にどのような薬かわからない人も多いのではないのでしょうか？

そこで今回は抗菌薬についてご説明します。

■ 抗菌薬とはどんなお薬？

抗菌薬とは細菌を壊したり、増えるのを抑えたりする薬のことを指します。その中でも微生物から作られた物質を抗生物質、抗生剤ということもありますが、それらも含めてすべて抗菌薬と呼びます。

■ かぜをひいたら「抗菌薬」を飲むといいの？

「先生、かぜをひいたので抗生剤（抗菌薬）をください。」そのような会話を聞いたことがあります。実はかぜ（かぜ症候群）とよばれるもののほとんどはウイルスが引き起こします。抗菌薬は病原体の中でも細菌にだけ効果があり、ウイルスに対しては効果がありません。かぜ症候群に対しては、安静、水分・栄養補給などによる自然治癒と、鼻水や咳を抑える薬や熱を下げる薬などを使って症状を和らげることが一般的です。もちろん、かぜの原因が細菌の場合は抗菌薬が必要になることもあるので一概には言えませんが、ほとんどがウイルスによるものであり、「かぜに抗菌薬は効果がない」ことをご理解いただければと思います。

■ 病院で処方された抗菌薬はいつまで飲めばいいの？

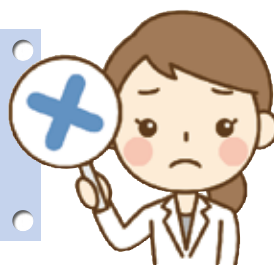
以前に抗菌薬をもらった時、お医者さんに指示された通りに最後まで内服されましたか？抗菌薬は、感染症の原因菌が体内から“完全に排除されるまで”使用する必要があります。「症状はよくなったのにまだ飲まないでだめ？」、「薬を飲む期間はなるべく短いほうがよいのではないか？」と思われるかもしれませんが、途中で薬をやめてしまうと症状がぶり返したり、薬が効きにくくなる薬剤耐性菌を作り出してしまう可能性があります。薬剤耐性菌が増え続けると、今までなら治っていた感染症にも抗菌薬が効かなくなることで治療ができなくなります。

今ある抗菌薬を大切に使うためにも、新たな薬剤耐性菌を増やさないことが重要になってきます。そのためには、薬を処方された期間、用法、用量通りにきちんと飲むことが大切です。今後の未来のためにも正しく薬を服用するようにしましょう。

その他、薬の服用に関する疑問などありましたら医師や薬剤師にご相談ください。

（薬局）

かぜのウイルスに
抗菌薬は効きません



ECMOとは

医療技術部 臨床工学室 河端 賢司

2020年3月11日、世界保健機関（WHO）は「WHO characterizes COVID-19 as a pandemic」と発表した。世界中でCOVID-19が猛威を振るい多くの重症呼吸不全患者が発生、本邦でも280例以上（2020年11月現在）の体外式膜型人工肺ECMO（extracorporeal membrane oxygenation）が導入された。ほとんどの医療従事者でさえ知らなかった「ECMO」という用語は、現在では一般市民も知るようになった。本邦では経皮的心肺補助PCPS（percutaneous cardio pulmonary support）という名称が使われてきたが、近年では欧米との呼称統一を図り、重症循環不全に対して静脈脱血-動脈送血にて心肺の補助を行うPCPSを「V-A ECMO（veno-arterial ECMO）」、重症呼吸不全に対して静脈脱血-静脈送血にて呼吸の補助を行うPCPSを「V-V ECMO（veno-venous ECMO）」と呼ぶことが多くなりました。

V-V ECMOは、人工呼吸器や胸部理学療法、薬物療法など従来の呼吸管理治療に抵抗性がある重症呼吸不全に対して、「膜型人工肺を用いた体外循環で一時的に呼吸補助循環を行い、その間に機能障害に陥った生体肺の回復を待ち、生命を維持させる対症療法」である。

本邦では1980年代に新生児救命例にてECMOの有用性が報告され多くの施設が導入し、成人においては1990年代から大き



SP200；テルモ株式会社

く普及した。記憶に新しいのは2009年にH1N1インフルエンザの世界的パンデミックにてECMOが再評価されました。

当院では現在ECMO装置を3台保有しています。V-V ECMOとV-A ECMOは基本的な回路構成に大きな差異はありませんが、V-V ECMOでは24時間監視体制を数週間以上の施行が必要となり管理期間が長期となります。V-V ECMOの主な目的は、①酸素加、②二酸化炭素除去であり自己肺に無理をさせないこと、つまりLung Rest（肺休止）に努めます。施行方法は、遠心ポンプにて静脈系から脱血し、膜型人工肺にてガス交換（上記①と②）を行い静脈系に返血します。

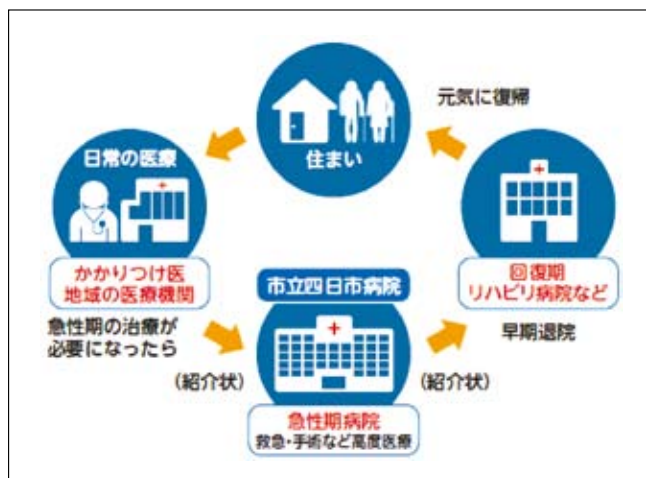
V-V ECMO施行時には、ECMO装置管理の他に抗凝固療法、水分管理、鎮静また、理学療法として体位呼吸療法、持続的腎代替療法、循環補助療法などの併用が必要となる可能性もあるため専門知識を備えた医師をはじめ看護師、理学療法士、臨床工学技士（体外循環認定士）などのチーム医療が必要です。

市立四日市病院の役割と機能をご紹介します！

市立四日市病院は、かかりつけ医や地域の医療機関からの紹介を受けるなど、急性期の治療が必要になった患者さんを診療しています。急性期を脱した患者さんは、主にリハビリを行う回復期病院や地域の医療機関などで療養を行うこととなります。このように、地域の医療機関と連携することにより、急性期病院としての役割が発揮されています。

また、地域の皆さんが安心して必要な治療が受けられるよう、急性期病院としての役割を担っていくため、当院では、これまで、災害拠点病院、救命救急センター、

DPC特定病院群病院（旧医療機関群Ⅱ群病院）、地域医療支援病院、総合周産期母子医療センター、地域がん診療連携拠点病院などの機能を有する病院としてこれらの指定や承認を受けてきました。



主な指定や承認の概要

○救命救急センターの指定

脳卒中や心筋梗塞、頭部外傷など、重篤な救急患者を24時間体制で受け入れ高度な診療機能を持つ三次救急を担う病院として、平成21年2月に指定を受けました。

○地域医療支援病院の承認

紹介患者に対する医療の提供や地域医療を担うかかりつけ医などを支援する能力を備え、地域医療の確保を図る病院として、平成24年6月に三重県から承認を受けました。

○総合周産期母子医療センターの指定

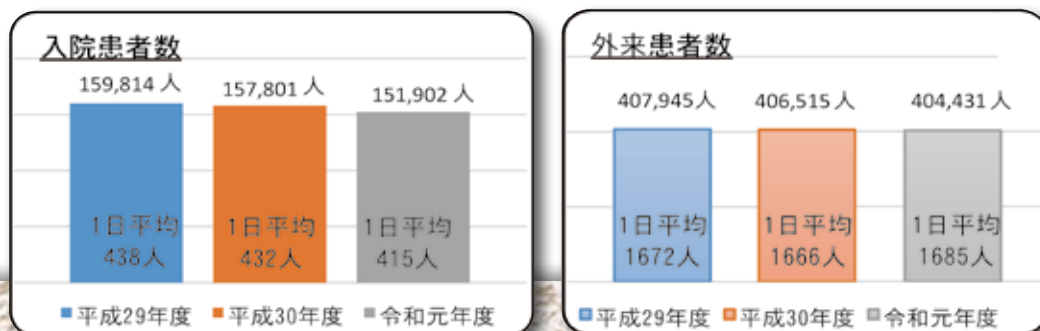
合併妊娠症など母体・胎児におけるリスクの高い妊娠に対する医療など周産期医療を担う施設として、平成25年10月に指定を受けました。

○地域がん診療連携拠点病院の指定

専門的ながん医療の提供、地域のがん医療の連携協力体制の構築、がん患者に対する相談支援・情報提供などを行う病院として、平成31年4月に4年間の指定を受けました。

これからも、急性期医療を担う北勢地域の基幹病院として、これまで受けてきた上記の指定や承認を継続できるよう、良質な医療の提供に努めていきます。

最後に、市立四日市病院の患者数についてご紹介します。年間延べ患者数は、下表のとおり、入院で約15万人、外来で約40万人、1日平均では、入院で約400人、外来で約1,600人となっています。



病院食✿こんだてじまん



栄養管理室は、「安全な食事」「治療に役立つ食事」「おいしくて楽しみのある食事」「地元の食材・旬の食材を使用した食事」「手作りの食事」の提供を目標として、給食管理・栄養管理に努めています。
病院食の一例をご紹介します。



敬老の日（赤飯）



赤飯／魚の酒蒸し／田楽
／そうめん南瓜／梨



行事食

クリスマス
チキン



小児病棟

クリスマスデザート

季節を感じ食事を楽しんでいただけるよう、お正月のおせち料理
ひなまつり、こどもの日、クリスマス等、毎月1回、行事食を実施しております。
写真は敬老の日のお赤飯、クリスマスチキンと手作りケーキで、いつもと違ったメニューで喜ばれています。

選択食

昼食時は選択食を実施しており
(対象にならない食種もあります)、

入院中でも食事を選ぶ楽しみを感じていただければと思って
おります。うどん・焼きそばなどの麺類や丼、ハンバーガーや、
ご当地グルメのトンテキなど色々なメニューを取り入れています。
写真は、ふっくらと焼けた「お好み焼き」やデリバリー気分を
味わえる「ピザ」も人気メニューの一つです。



ピザ



お好み焼

病院食が入院生活に潤いをもたらす量・味付け・バランスなどにおいて「おいしくて健康的な食習慣」の
見本として役立てて頂けたらと思います。また、退院後も食事療法が必要な患者さんには、「栄養相談」等
において、継続した適切な食生活のサポートをさせて頂いておりますので、ご利用ください。

(栄養管理室)



コロナと不安、コロナと不眠

脳神経内科部長 家田 俊明

新型コロナ・ウィルスが猛威を振るっています。原稿を書いているのは2020年12月下旬ですが、まだその勢いは留まるところを知らず、感染者数は増えるばかりです。さまざまな報道機関から新型コロナ・ウィルスに対するアンケートの結果が公表されていますが、いずれも皆さんがコロナ感染症に対



する不安を感じ、ストレスを抱えながら過ごしていらっしゃることを明らかにしています。特に、ご高齢の方や基

礎疾患を持つ方々では重症化しやすいということも知られているので、そのような方々にとってはひとしおつらい状況と考えられます。

このような不安やストレスにさらされ続けていると交感神経が緊張し、身体的にもいろいろな症状が出てきます。そもそも交感神経というのは闘争の神経といっても良いくらい、生物を活動的にする自律神経です。たとえば、脈拍数を増加させたり、血圧を上昇させたり、呼吸を活発にさせたりします。その反面、消化管の運動は弱まり、唾液の分泌も減ってきます。そのような、働きは、睡眠や免疫にも及び、交感神経の緊張が強くなると睡眠や免疫などの機能にも影響を及ぼします。

コロナパンデミックではコロナにかからなくても不安のため不眠に陥ってしまいます。そこで、気をつけなければならないのは、これまでも注意を喚起してきたように「危ないお薬」に手を出さないことです。既に2017年に、厚生労働省からエチゾラム、トリアゾラム、ゾルピデムなどベンゾジアゼピン受容体部位作動薬は認知機能、運動機能、感覚機能の低下をもたらし、精神症状を誘発し、しかも、危ないからといって急激に中断すると離脱症状としての不穏・譫妄が出現する可能性も指摘されています。

もちろん、このようなお薬はきちんと専門医に

よって必要性があると判断され、このような副作用の出現にも十分に主治医が留意して処方されている場合には安心して服用していただいても問題はありません。しかし、十分な問診もなく、安易に処方されている場合には、患者さんの立場からも注意が必要です。最近では、まだ3剤しかありませんが、スボレキサント、レンボレキサント、ラメルテオンといった上記のような危険な作用のない安全な不眠治療薬も発売されているので、主治医の先生とよく相談して、よいお薬を処方していただけるようにしてください。

不安を軽減し、交感神経の緊張を緩和するもう一つの方法は、社会的な孤立から身を守るためには最新のデバイスを利用することも重要です。100年前のスペイン風邪の時には手軽に利用できなかった電話やネットです。電話で家族や親戚の元気な声を聞くことは安心に繋がります。さらにスマートフォンで実際の笑顔を見ながら会話をしたり、ビデオに撮った動画を送ってもらったりできればさらに安心できると思います。

私も外来では、電話再診を行っています。当院ではまだ画像によるやりとりはできませんが、ご家族が来院なさった折にはスマートフォンに録画した動画で実際の動きを見ながら診療の参考にしたり、私を動画に記録してもらってメッセージを送ったりしています。電話で声が聞けるだけでも安心ですが、患者さんの笑顔を拝見できることは、われわれ医療者にとってもはげみになります。

このようにコロナ感染は大変な状況で、今後どうなっていくのか予測もつきませんが、それでも今できることを少しずつでも着実に成し遂げていって、この苦境を乗り越え、また、みんなで明るく語らいながら食事ができる日がやってくることを楽しみにしています。



ご存じですか？

医療と福祉

“ほっと”
ニュース

特定医療費(指定難病)・ 小児慢性特定疾病医療費助成制度

国で定められた指定難病や小児慢性特定疾病に罹患し、一定の認定基準を満たす場合は、医療費の自己負担額が減額される可能性があります。また、制度申請にあたり、所定の診断書を提出いただく必要がありますが、それにより疾病の治療方法の確立と普及を推進します。

①対象疾患

特定医療費（指定難病）は333疾患、小児慢性特定疾病医療費助成制度は762疾患が対象です。

(令和2年12月現在)

②医療費の対象範囲と自己負担額

認定された疾病と、それに付随して発現する傷病に関する医療費が対象です。具体的には、診察や検査の費用、お薬代、訪問看護の利用料などです。世帯の所得状況や患者さんの身体状況により、自己負担額が異なります。

また、医療費助成が受けられる医療機関や薬局が指定されています。これらは三重県のホームページにて確認いただけます。なお、当院は三重県の指定医療機関です。

●制度の詳細や、対象疾患及び認定基準につきましては、下記ホームページから確認いただけます。

特定医療費（指定難病）に関する情報については、「**難病情報センター**」のホームページをご覧ください。

<https://www.nanbyou.or.jp/>

難病情報センター

検索

小児慢性特定疾病医療費助成制度に関する情報については、「**小児慢性特定疾病情報センター**」のホームページをご覧ください。

<https://www.shouman.jp/>

小児慢性

検索

■医療福祉サービスや他の医療機関のご紹介、在宅療養についてお困りの場合は、

地域連携・医療相談センター「サルビア」（がん相談支援センター）へ
ご相談ください

相談時間：月～金 8:30～17:00(予約制) TEL: 059-354-1111 内線5185